

## ディレクター日誌（活動・研修生の様子）

期日 平成 29 年 11 月 11 日（土）～12 日（日）【1泊2日】

場所 周防大島町土居周辺

参加者 小学校 5・6 年生（男子 8 人、女子 6 人）

### 1 日目

期日 11 月 11 日（土）

場所 島中小～オイシーフーズ～みかん園～島中小

テーマ 体で働く 頭で働く 心で働く

「職」から「食」へ仲間とともに

#### 【活動の様子】

3 年目を迎える「仕事」へのアドベンチャープログラムが今年も周防大島で開催された。前日からの雨は朝になるとすっかりあがり、空も海も大地もこの日を待っていたかのように美しい姿を現した。

昨年までは夏に開催されたジョブプログラムだったが、今年は秋の開催となった。自然あふれる周防大島に、11 月 11 日朝、県内各地から小学校 5・6 年生 14 人が集まってきた。ジョブプログラム in 周防大島の始まりである。

「人との出会い」それは、チャレンジの一步でもある。2つのグループに分かれているが、会話はまだない。住んでいる場所も学校の規模もみんな違う子どもたちが、自己紹介を少しずつ始める。2日間一緒に過ごす仲間との出会いであり、わくわくドキドキするものである。キャンプ名を決めた頃には、子どもたちの距離も少し近くなってきた。

インストラクターから2日間の活動について話を聞く。働くということ、「職」から「食」を得るということ、スケジュール表のページは真っ白だ。これから子どもたちの手でそのページが埋まっていく。

「仕事との出会い」それは、オイシーフーズに行くことから始まる。オイシーフーズに行くと、新村さんが待っていてくださった。早速、仕事をお願いをする。もちろん交渉をするのは子どもたちである。仕事は、いりこの選別とラベル貼りである。新村さんが仕事の仕方を丁寧に教えてくださる。やがて店先に商品として並ぶことを聞き、気持ちも引き締まる。



周防大島の美しい海



出会いの場面



活動について打合わせ



仕事をお願い

作業のスタートだ。黙々と作業をする子どもたち。ラベルを貼る位置を確認する。いりこの選別も大変である。いりこ以外の小さな魚を除いていく。集中して作業は行われた。途中、休憩を挟み作業を交代する。作業が終わりにさしかかった頃ラベル貼りの見直しをする。すると明らかに貼る位置が違い商品として並べることができない袋を見つける。再度チェックが始まりやり直しをすることになる。

仕事をする事の責任の大きさを知る。丁寧に仕事をしないとそれは商品として出すことができないという当たり前のことを知る。新村さんから「仕事は工夫をしながらするとよいこと」「力を合わせて行くと良いこと」を教えていただく。人それぞれ仕事の速さは違う。それぞれが力を合わせて仕事を組み立てていく。1時間半の仕事が終わった後、新村さんから、いりこをいただくことができた。

お昼を食べ、次はみかん園の仕事である。島中小からみかん園まで歩いていく。子どもたち同士の距離はかなり近くなっているようだ。みかん園に到着すると、奥川さんが待っていらっしやった。まず自分たちで仕事のお願いをする。奥川さんから、今回の仕事の内容を聞く。仕事は、山口県のオリジナル品種「ゆめほっぺ」の袋かけだ。一つ一つ丁寧にみかんに袋をかけていく。かけ忘れがないように順番に袋をかける。みかんの位置によっては、袋のかけ方が難しい場所もある。なかなかうまくかけられない。早速、班の話合いが行われた。

「袋を持ってくる担当を決めよう。」

「みかんの袋のかけ残しが残らないかチェック係がいたらいいね。」

「一つ一つの木に袋をかけていこう。」

子どもたちで話し合い、役割を決める。自分たちで話し合っただけで決定することこそが、このジョブプログラムで大切にしている場面である。仕事がスタートして2時間後、多くのみかんに袋がかけられていた。

仕事を終え、奥川さんからたくさんの野菜をいただく。じゃがいも、さつまいも、里芋、かぼちゃなど新鮮な野菜がたっぷりだ。この野菜が夕食や朝食になる。

島中小に帰る途中、オイシーフーズでいただいたいりこと奥川さんからいただいた野菜で夕食のメニューを考える。お店に必要な材料を買いに行く。夕食の買い物の話合いを通して、仲間との距離がより縮まった。島中小に帰り、テントを設営する。みんなの力が一つになる瞬間である。いよいよ夕食作り。メニューはカレーライス。いりこを使って味噌汁を作っているグループもある。いただいた材料と買い物をした材料を合わせて夕食が出来上がる。



いりこの選別



ラベル貼り



仕事のお願い



みかんのふくろがけ



力を合わせて夕食作り

「いりこを使って味噌汁を作ったら美味しいなあ。」

「みんなで分担することで早くごはんを作ることができるなあ。」

「バラバラにやるんじゃなくて、みんなで協力してやった方がいいなあ。」

夕食を作ることで、子どもたち同士の距離もぐっと縮まり楽しい時間になった。自分たちで献立を決めて自分たちで作る。味も美味しい夕食で、心も身体も温まった。

夕食の後、一日を振り返る。

「簡単だと思っていた仕事が、意外にも難しかった。」

「仲間がいると、みかんの袋かけの時やいりこの選別の時も協力してできた。」

「明日も、力を合わせて頑張りたい。」

「落ち着いて仕事をしたい。」

子どもたちからたくさんの感想を聞くことができた。

体育館の中でテント泊。充実の一日が終わった。

## 2日目

期日 11月12日(日)

場所 島中小～みかん園～島中小

テーマ 体で働く 頭で働く 心で働く  
「職」から「食」へ仲間とともに

### 【活動の様子】

朝の活動が始まった。テントを片付けたり、荷物を移動したりお世話になった島中小学校の掃除をしたりした。1日目の野菜やいりこを使って朝食を作る。ご飯に味噌汁の班、パンに卵焼きとベーコンの班とグループの個性も出ている。昨日いただいたものや、買い物で手に入れた材料を使ってのメニューである。

朝食後、みかん園の仕事に再チャレンジである。みかん園に着くと奥川さんが待ってくださっていた。奥川さんから前日の仕事について話があった。

「前日かけたミカンの袋は木を揺らすと、あっという間に落ちてしまった。やり直しをしないといけないのでは仕事にならない。君たちが仕事をさせてくださいと言ったのだから、きちんとやって欲しい。」

と言われ、子どもたちの気持ちは、引き締まった。丁寧に仕事をしないといけないことに改めて気づく。新川さんも同じことを話していらっしゃったことを思い出す。

再び、グループで話し合いを行った。

「一本の木をみんなで見ていこう。」

「見えていなかった場所があるかもしれないね。」



奉仕作業



みんなで朝食



前日の仕事についての話

「反対側に立って見ると、袋がかかっているみかんが見えるかもしれない。」

仕事は工夫したらよいこと、力を合わせて進めればよいことを思い出した。たくさんの袋かけを  
するというより、一つ一つ丁寧に仕事をした。あっという間に、2時間の仕事が終わった。

奥川さんからは、「袋かけをしてくれてありがとう」と言われ、子どもたちはホッとした笑顔に  
なった。

仕事を終え、島中小に帰る。最後に家族のために味噌汁作りを  
することになった。いただいたいりこでだしを取り、野菜を使っ  
て味噌汁を完成させる。作った味噌汁は、自分の手で、家族へ手  
渡す。最後のミーティングで2日間を振り返る。この2日間で考  
えたことはどんなことだったのだろう。真っ白なスケジュール表  
には、多くのことが書き込まれたことだろう。仕事の大変さも感  
じた2日間だった。しかし、仕事はみんなで作り上げることや工  
夫をしてやるというよいこと、責任を持って向かうこと。一人一人が  
つかんだものは多くあったことだと思う。



丁寧な仕事

閉会式で、この2日間感じたことを一人ずつ言葉にして仲間に伝えた。

「ミカンやいりこが商品となっていくには、たくさんの人が関わっていることが分かりました。」

「働くということはお金をもらうだけでなく、たくさんの人のためになっていることが分かりまし  
た。」

「仲間と協力することが大切だと思いました。」

仕事を通して仲間と働くことを考えることのできた時間だった。これからの生活に活かして欲しい  
と思う。

#### 【参加児童の感想より】

- ・仕事は、何も考えずにやるのではなく、どうしたら丁寧にできるかを考えながらやる  
ことが大切だと分かった。
- ・めんどくさがらずに、きちんとやることをがんばろうと思う。
- ・仲間と一緒に活動することで自分だけでは分からないところを知ることが出来ると感  
じました。
- ・仕事をさせてもらっているので、きちんとやることが大切だと思いました。
- ・大変だったけど、仕事が終わってから達成感があった。
- ・仕事は、丁寧にきちんとやることが大切だと思った。
- ・男子も女子も関係なく協力することを学校のクラスでもその経験を活かそうと思いま  
した。

